

令和 元年 6 月 17 日現在

機関番号： 8 2 6 2 2  
 研究種目： 国際共同研究加速基金（国際共同研究強化）  
 研究期間： 2016～2018  
 課題番号： 1 5 K K 0 0 7 0  
 研究課題名（和文）古代ローマ工芸美術の基礎的研究 ～テッラ・シギラタについて～（国際共同研究強化）

研究課題名（英文）Study for terra sigillata(Fostering Joint International Research)

研究代表者  
 向井 朋生（MUKAI, TOMOO）

独立行政法人国立美術館国立西洋美術館・学芸課・リサーチフェロー

研究者番号： 3 0 6 2 0 4 6 3

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 4,800,000 円  
 渡航期間： 11 ヶ月

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、古代地中海世界において広い範囲で長い間作られ、使われ続けた、テッラ・シギラタと呼ばれる食卓用の上質な土器を研究する際に最初の手助けとなるインターネットサイトの作成である。  
 数多ある古代土器の中で、その流通範囲とモデルチェンジの早さから、テッラ・シギラタは古代地中海遺跡において最も短スパンで時代の移り変わりを知ることが出来るものである。したがって、テッラ・シギラタを理解することは、古代地中海遺跡に携わる研究者には必須な事項の一つである。

研究成果の学術的意義や社会的意義  
 わが国の研究者が地中海地域の古代遺跡を発掘することは少なくないが、その発掘で見つかる大量の土器が遺跡や遺構の解釈に有効に利用されている例は皆無である。現代において発掘で見つかる土器は、人々が生きた痕跡を数十年単位で映し出すことができる道具として使われているものであるが、残念ながらわが国においてはこのことは全く理解されていない。  
 実際の考古遺物に直に触れる機会がないうえに、専門の考古遺物教育も存在しないわが国の古代地中海文明研究者にとって大きな弱点であるといえる。本研究によって立ち上げられたテッラ・シギラタ入門サイトは、わが国の研究者にとってこの苦手な分野を解消する手助けとなるものである。

研究成果の概要（英文）：The purpose of our research is to establish an internet site dedicated to the Terra sigillata of the Mediterranean that were produced and used during the ancient times. Ceramics, which is the most abundant artefact in an archaeological dig, is undergoing rapid changes. Ceramics has become the most commonly used fossil-director in archeology. Understanding the Terra sigillata is thus essential for researchers working in the ancient civilization of the Mediterranean.

研究分野：考古学

キーワード：美術史 工芸史 考古学 古代ローマ 多国籍

## 1. 研究開始当初の背景

(1) テッラ・シギラタと呼ばれる古代地中海土器は、西欧では 19 世紀末から研究が始められている、古代ローマ研究において重要な位置を占める考古学遺物の一つである。しかしながら、わが国には古代地中海土器を専門に研究している研究者がいないため、古代ローマを扱う専門書・一般書において、テッラ・シギラタに関する記述には、半世紀以上前の文献からの孫引きや西欧文献の誤訳に基づいた引用などが蔓延している。

(2) 現代の考古学発掘において、古代地中海土器には主に年代推定のツール(道具)としての役割と、交易品として当時の経済活動を推定するためのツールとしての役割が与えられている。地中海地域において広範囲で生産され、時代ごとに頻繁なモデルチェンジを繰り返していたテッラ・シギラタは、歴史学・考古学研究において古代地中海土器の中でも特にこれらの役割を担う重要な土器であり、歴史資料である。

したがって、テッラ・シギラタは地中海地域における古代ローマ時代遺跡の西欧の調査隊の発掘において、発見され次第有効に研究されているものであるが、わが国の調査隊がテッラ・シギラタを遺跡・遺構の解釈に利用している例は、本研究担当者が携わる発掘調査を除けば皆無である。

(3) このような背景から、本研究担当者は科学研究費助成事業(基盤研究C)「古代ローマ工芸美術の基礎的研究～テッラ・シギラタについて～(課題番号 25370152)」においてテッラ・シギラタの西欧における研究状況を整理し、わが国の美術史・西洋史における誤用の問題点をまとめ、国内の学会において公表した。

その研究課題の目的が、わが国の研究者にテッラ・シギラタに対する理解を深めてもらうことにあつたため、その成果を公表する形として本研究である国際共同研究加速基金による、研究者が簡単にアクセスできて「ツール」として使えるインターネットサイトという形で成果を公開すべきと考えるに至った。

## 2. 研究の目的

(1) 本研究が目的とするインターネットサイトは、地中海土器学の知識を持たない他の専門分野の研究者や初学者にも参照してもらうために使いやすさ、参照しやすさに重点を置いて、立ち上げることを意図した。

(2) インターネットサイトに載せる内容として、派生品をも含む形でテッラ・シギラタを広義にとらえ、地中海地域で紀元前 2 世紀から紀元後 7 世紀に渡って生産され流通した各カテゴリーのテッラ・シギラタについて、それぞれの基本情報や参考文献だけでなく、現代の地中海土器学研究においては欠かすことのできない土器の胎土(使用されている粘土)の地質学的分析の項目も設けることにした。

## 3. 研究の方法

(1) 国際共同研究加速基金による本研究の渡航先は、本研究担当者が Ph.D を取得したエクスマルセイユ大学とフランス国立科学研究センターの共同ラボラトリーであるカミーユ・ジュリアン・センター(エクス・アン・プロヴァンス市、フランス)を、国際共同研究者は当センターで研究ディレクターを務める、古代地中海土器学の世界的権威の一人であるミッシェル・ボンフェ(Michel Bonifay)博士に依頼した。

(2) インターネットサイトの構築にあたっては、立ち上げには外部専門技術者(ウェブマスター)の協力を仰いだ。ウェブマスターはサイトの独自ドメインを取得し、研究担当者が選択した登録項目に応じてページレイアウトを行った。

サイトにはテッラ・シギラタに関する最新かつ必要な情報を織り込むと同時に、情報過多による煩雑で見難いサイトにならないように、登録する項目の収取選択が必要とされた。登録内容の基本を構成するテッラ・シギラタの各カテゴリーに関するデータについては、前述の科学研究費助成事業(基盤研究C)による成果を選択加工する形で行われた。

(3) テッラ・シギラタの土器胎土の地質学的分析については、剥片プレパラートの作成は外部業者に委託し、その剥片の偏光顕微鏡による写真と分析に関しては、研究協力者として地中海土器の分析を専門とするジェノヴァ大学の地質学者クラウディオ・カペリ(Claudio Capelli)の協力を仰いだ。

(4) サイト構築と並行して、古代地中海土器に関する参考文献の PDF 化も行い、3000 以上の論文・著作をデータバンクとしてハードディスクに保存したが、著作権の都合上、本研究課題の成果であるインターネットサイトで公開することは行わない。

#### 4. 研究成果

(1) 本研究課題の成果として、わが国の古代地中海文明研究史上初めて地中海土器に関するインターネットサイトが作成された。テッラ・シギリタに特化したこのサイトはわが国の研究者のみならず、世界中の研究者の研究の手助けとなりうるものである。サイト上でテッラ・シギリタを説明するために使われた日仏二か国語のうち、フランス語においては、長い研究の歴史の上にほぼ完成された研究者によって通常使われている既に確立した「共通言語」である。翻って、サイト上でテッラ・シギリタを解説する日本語の用語は、今回あらたに選ばれ構成された、今後のわが国においてテッラ・シギリタ研究における新しい「共通言語」となるべくものである。この新しい「共通言語」の確立は、今後わが国の研究者がテッラ・シギリタについて記述する際に、日本語を「発明」する必要がなくなる点で大いに意義がある。

(2) 閲覧者数、ならびに引用者数から、このサイトが与えるインパクトを理解できるのは、今後いかにこのサイトを学界に周知させていくかに依る。今後の展望として、インターネットサイトの特性から研究の進展に応じて新規データの挿入による絶え間ないアップデートを行うことが出来、本国際共同研究加速基金による研究成果の恒久的な価値が保たれる。サイトとしての特性はまた同様に、サイトを参照した人たちからの質問に答えたり、要望に応じてその内容を進化させていくことも可能にする。

#### 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 0 件)

〔図書〕(計 0 件)

〔その他〕

ホームページ等

古代地中海のテッラ・シギリタ

[ceramique-sigille-mediterranee.com](http://ceramique-sigille-mediterranee.com)

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究分担者

研究分担者氏名：ミッシェル ボニフェ

ローマ字氏名：Michel Bonifay

所属研究機関名：エクスマルセイユ大学（フランス）

部局名：カミーユ・ジュリアン・センター

職名：研究ディレクター

##### (2) 研究協力者

研究協力者氏名：クラウディオ カペリ

ローマ字氏名：Claudio Capelli

所属研究機関名：ジェノヴァ大学（イタリア）

部局名：Dipartimento di Scienze della Terra dell'Ambiente e della Vita

職名：研究員

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。